

【書評】

佐藤 公俊, 澤木 勝茂 著

レベニューマネジメント —収益管理の基礎からダイナミックプライシングまで—

共立出版 374頁 2020年 定価4,950円(税込) ISBN: 978-4-320-09650-9

今日の新型コロナウイルスによるパンデミックが最も甚大な被害を与えた産業は、本書が研究対象とする航空・鉄道などの交通産業およびホテル・レストラン・アミューズメントなどのレジャー産業である。このような時代状況のもとで、感染症拡大の防止と制御を含む本書が出版されたことは極めて時宜を得たといえる。レベニューマネジメント(収益管理)は、企業収益を最大にするために、さまざまな商品やサービスの供給容量を管理し、販売時の価格付けに関する経営戦略を策定するための理論である。収益管理に関する意思決定は、より効率的な経営を可能にするばかりでなく、市場競争力に決定的な影響を及ぼす可能性がある。欧米では数多く出版されている収益管理の成書が、日本でも出版されたことを歓迎したい。新型コロナウイルスの収束後に、本書が大学などでの研究に加えてさまざまな産業の現場においても活用され、新型コロナウイルスによって疲弊した上記の産業の復興に役立つことを願って、筆者は本書の書評を引き受けることとした。

本書では、レベニューマネジメントについて著者たちの研究成果を中心に以下のような構成で幅広く解説されている:

- 第1章 入門:レベニューマネジメントとは何か
- 第2章 収益管理のための経済学
- 第3章 市場の差別化による収益管理
- 第4章 航空産業の収益管理
- 第5章 ダイナミックプライシング
- 第6章 ダイナミックプライシングの適用事例
- 第7章 費用便益分析と投資プロジェクトの評価
- 第8章 感染症と収益管理
- 第9章 収益管理の深化

第1章では、市場経済で取引される商品やサービスに係るレベニューマネジメントとは何かを説明し、価格付けの重要性について解説している。第2章では、収益管理を学ぶうえで必要な経済学の用語とロジック

を、特にマイクロ経済学の基礎を解説している。この第2章は、理工系学部を学問的バックグラウンドとする学生・院生にとっても便利で平易なマイクロ経済学入門となっている。

第3章では、消費者にとっては在庫の繰越ができない陳腐化商品を販売する独占企業の価格付けとその収益管理のモデルを述べている。数理計画法の研究成果が価格付けで重要な役割を果たしていることを知ることができる。第4章では、競争市場のもとでの収益管理の理論と手法の適用対象を、航空会社に特化して座席クラス間の配分や航空券の価格付けなどの問題を考えている。さらに乗客を最も効率的に運ぶネットワークであるハブ＝スポークシステムについて論じている。

第5章では、近年、収益管理の分野で急速に関心が高まるダイナミックプライシングの考え方とそのモデルについて論じ、ダイナミックプライシングの長所と課題について述べている。第6章では、収益管理が適用されるさまざまな産業でのダイナミックプライシングの具体的事例を採り上げ、最適な価格政策や企業戦略について述べている。

第7章では、公益事業などにおける公共投資のプロジェクトを評価する費用便益分析の手法について論じている。さらに費用便益分析を実施する場合の問題点や実務上の課題についても述べている。第8章では、感染症が大流行した場合の感染症の数理モデルを収益管理のモデルとして考察している。第7章と第8章では、OR研究者をはじめとする専門家と政策決定者との望ましい関係についても言及していることが興味深い。第9章では、収益管理の深化として今後の新しい研究の方向や分野について論議している。たとえば、大規模な災害後の安全対策を考慮した復旧モデルおよび企業の合併・買収に関する評価を将来収益の交換という新しい視点から論じている。

本書は、上述のように収益管理の基礎モデルの解説に始まり、収益管理モデルの適用事例として、航空機

の座席管理や感染症、災害後の復興モデルなど、広範な内容が丁寧に解説されたテキストであるといえる。ORや経営工学を学ぶ学生はもちろんのこと、企業で商品・サービスの開発・販売・企画に係わり、収益管理や経営戦略に携わっている実務家まで、ぜひ本書を読んでレベニューマネジメントについて習得してほしい。

い。そして、技術としてのOR的手法が、本書が提起するサービス業を中心とする収益管理の分野にも今後幅広く適用される契機となることを筆者は願っている。

八木恭子（東京都立大学）